

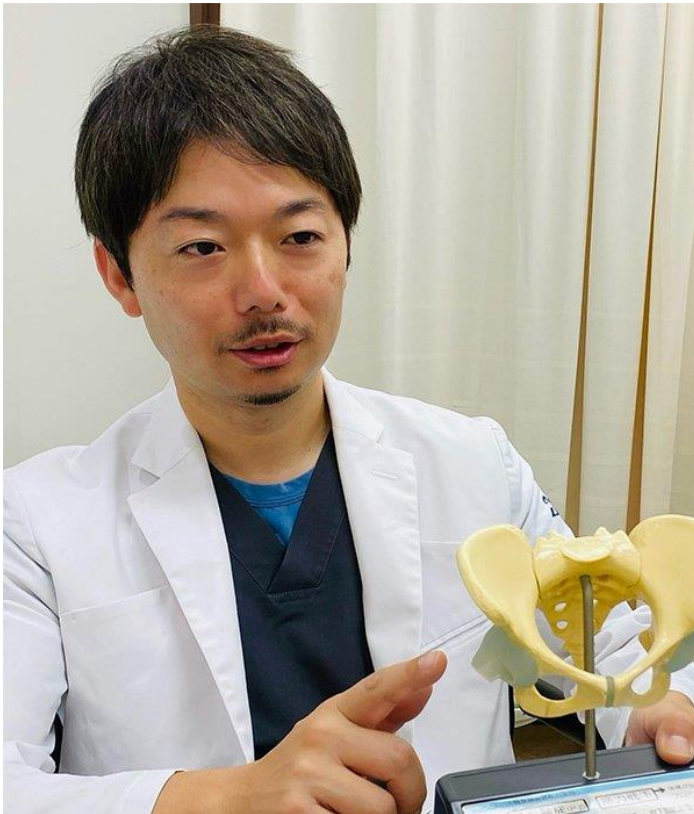
手足や関節の症状(2024年7月)

医療の「いま」を読み解く —心と体のメッセージ—

2024年7月25日 0:00

[変形性股関節症](#)

痛みや違和感続くなら受診を



京都久野病院 整形外科副部長 高橋 基 氏

Q 変形性股関節症とは。

A 股関節の軟骨がすり減って変形が起こり、脚の付け根に痛みが生じます。歩くことで体重がかかるため進行しやすく、症状が重くなりやすい特徴があります。50歳以降の女性に多く、痛みが出たり、曲げづらくなったりします。生まれつき股関節のつくりが浅く、体重を受ける部分の面積が小さい「寛骨臼（かんこつきゅう）形成不全」が原因の人もいます。その場合、30代くらいから違和感や痛みが出て、悪化すると変形性股関節症に移行します。

Q 治療は。

A 股関節は膝関節に比べて体の中の深い部分にあるため、ヒアルロン酸の注射は一般的ではなく、リハビリを組み合わせた保存治療などにも限界があります。リハビリを続けてもなかなか痛みが取れない場合は、手術を選択します。軟骨が残っている場合は、骨を切ってそれ以上軟骨が傷まないように整える関節温存手術があります。軟骨がすり減ってしまっている場合は、人工関節置換術になります。手術と入院の期間は病院や患者さんの状況にもよりますが、数週間から1カ月半くらいかかります。

Q 注意するポイントは。

A 股関節の違和感や痛みが1カ月ほど続いたら、一時的な筋肉の炎症ではない可能性があります。気になる症状があれば受診してください。多忙な現役世代にも発症しうるため、手術に踏み切れないまま悪化してしまうケースがよく見られます。受診や手術のタイミングは重要です。人工関節は抵抗感を持たれがちですが、手術の成績がよく、耐用年数も上がっています。旅行に行けるようになったり日常生活の動作が楽になったりと、QOL（生活の質）が上がることにつながります。手術の判断には、納得できるよう医師とよく話し合うことが必要ですが、選択肢として考えてもよいでしょう。